

令和3年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

都道府県名	徳島県		市町村類型	II-2	指定団体等の指定状況		区分		令和3年度(千円)	令和2年度(千円)	区分		令和3年度(千円・%)	令和2年度(千円・%)		
					財政健全化等	×	歳入総額	37,732,106	41,624,348	実質収支比率	6.1	0.6				
市町村名	阿南市		地方交付税種地	1-2	財源超過	×	歳出総額	36,266,832	41,248,782	經常収支比率	81.6	92.1	(90.2)	(97.0)		
					首都	×	歳入歳出差引	1,465,274	375,566	(※1)						
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	167,865	249,294	標準財政規模	21,442,753	20,575,098				
人口	令和2年国調(人)	69,470	産業構造(※5)		中部	×	実質収支	1,297,409	126,272	財政力指数	0.79	0.83	12.8	13.4		
	平成27年国調(人)	73,019			過疎	×	歳年度収支	1,171,137	8,195	公債費負担比率	12.8					
	増減率(%)	-4.9			山振	×	積立金	893,918	80,610	健全化判断比率	-	-				
住民基本台帳人口(※7)	令04.01.01(人)	70,785	第1次	令和2年国調	低開発	×	積立金取崩し額	0	650,000	実質赤字比率	-	-	5.0	4.9		
	うち日本人(人)	70,457		平成27年国調	指数表選定	○	実質半年度収支	2,065,055	-561,195	連結実質赤字比率	-	-				
	令03.01.01(人)	71,790	第2次	8.9	9.8	基準財政収入額	11,547,501	12,511,879	資金不足比率(※4)	-	-					
	うち日本人(人)	71,426		9.351	9.902	基準財政需要額	16,003,752	15,503,319								
	増減率(%)	-1.4	第3次	29.9	30.4	標準税収入額等	14,791,340	16,089,047	将来負担比率	-	-					
	うち日本人(%)	-1.4		19,126	19,510	經常経費充当一般財源等	18,677,923	18,338,714								
面積(km ²)	279.25		61.2	59.8	歳入一般財源等	24,830,883	22,654,099									
人口密度(人/km ²)	249															
世帯数(世帯)	27,439															
職員の状況																
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	38,279,920	37,379,002					
	市区町村長	1	4,545		一般職員	772	2,332,984	3,022	うちの資金	27,521,126	26,930,555					
	副市区町村長	2	7,240		うち消防職員	106	296,058	2,793	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	28,185,340	28,855,211					
	教育長	1	6,520		うち技能労務職員	77	242,165	3,145	債務負担行為額(支出予定額)	9,317,716	9,075,863					
	議会議長	1	4,820		教育公務員	27	70,740	2,620	収益事業収入	-	-					
	議会副議長	1	4,280		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	466,000	466,000					
	議会議員	26	3,990		合計	799	2,403,724	3,008	積立金	9,257,602	8,363,684					
						ラスパイレシ指数				現在高	4,227,376	3,569,853				
										財政調整基金	6,416,637	6,339,388				
										減債基金						
								その他特定目的基金								
一般会計等の一覧																
項番	会計名	事業会計の一覧		項番	会計名	公営企業(法適)の一覧		項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧		項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(10)	国民健康保険事業会計	(16)	阿南市水道事業会計	(18)	羽ノ浦農業業落排水事業会計	(19)	老人ホーム福寿荘組合	(25)	株式会社コートパール徳島					
(2)	住宅新築資金等貸付事業会計	(11)	加茂谷診療所事業会計	(17)	阿南市公共下水道事業会計			(20)	那賀川北岸地域湛水防除施設組合							
(3)	伊島地区生活排水処理事業会計	(12)	伊島診療所事業会計					(21)	徳島県市町村総合事務組合(一般会計)							
(4)	学校給食事業会計	(13)	椿診療所事業会計					(22)	徳島県市町村総合事務組合(徳島滞納整理機構特別会計)							
(5)	奨学資金貸付事業会計	(14)	介護保険事業会計					(23)	徳島県後期高齢者医療広域連合(一般会計)							
(6)	春日野地域下水道事業会計	(15)	後期高齢者医療会計					(24)	徳島県後期高齢者広域連合(後期高齢者医療事業会計)							
(7)	豊香野地区生活排水処理事業会計															
(8)	西春日野生活排水処理事業会計															
(9)	夜間休日診療所事業会計															

(注釈) ※1: 經常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和3年地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	13,531,668	35.9	13,531,668	65.4	普通税	13,530,627	100.0	489,099	
地方譲与税	341,683	0.9	341,683	1.7	法定普通税	13,530,627	100.0	489,099	
利子割交付金	10,203	0.0	10,203	0.0	市町村民税	5,142,323	38.0	489,099	
配当割交付金	94,506	0.3	94,506	0.5	個人均等割	120,897	0.9	-	
株式等譲渡所得割交付金	98,936	0.3	98,936	0.5	所得割	3,209,029	23.7	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	226,339	1.7	37,057	
地方消費税交付金	1,630,238	4.3	1,630,238	7.9	法人税割	1,586,058	11.7	452,042	
ゴルフ場利用税交付金	22,070	0.1	22,070	0.1	固定資産税	7,672,054	56.7	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	7,637,852	56.4	-	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	281,753	2.1	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	434,412	3.2	-	
自動車税環境性能割交付金	14,790	0.0	14,790	0.1	釧産税	85	0.0	-	
法人事業税交付金	299,082	0.8	299,082	1.4	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金等	135,243	0.4	135,243	0.7	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	45,697	0.1	45,697	0.2	目的税	1,041	0.0	-	
自動車税減収補填特例交付金	5,713	0.0	5,713	0.0	法定目的税	1,041	0.0	-	
軽自動車税減収補填特例交付金	3,490	0.0	3,490	0.0	入湯税	1,041	0.0	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	80,343	0.2	80,343	0.4	事業所税	-	-	-	
地方交付税	5,273,011	14.0	4,476,235	21.6	都市計画税	-	-	-	
普通交付税	4,476,235	11.9	4,476,235	21.6	水利地益税等	-	-	-	
特別交付税	796,776	2.1	-	-	法定外目的税	-	-	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	
(一般財源計)	21,451,430	56.9	20,654,654	99.8	合計	13,531,668	100.0	489,099	
交通安全対策特別交付金	6,762	0.0	6,762	0.0					
分担金・負担金	82,827	0.2	-	-					
使用料	373,477	1.0	32,936	0.2					
手数料	89,416	0.2	-	-					
国庫支出金	7,459,965	19.8	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	751	0.0	751	0.0					
都道府県支出金	2,732,025	7.2	-	-					
財産収入	444,504	1.2	5,279	0.0					
寄附金	275,913	0.7	-	-					
繰入金	148,963	0.4	-	-					
繰越金	375,566	1.0	-	-					
諸収入	291,129	0.8	1,053	0.0					
地方債	3,999,378	10.6	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち猶予特例債	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	2,175,178	5.8	-	-					
歳入合計	37,732,106	100.0	20,701,435	100.0					

歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	290,387	0.8	-	290,387	
総務費	4,675,587	12.9	-	209,198	4,142,130
民生費	14,479,997	39.9	-	74,014	6,853,435
衛生費	4,208,352	11.6	-	673,765	2,774,514
労働費	38,240	0.1	-	-	29,328
農林水産業費	1,232,595	3.4	-	343,939	680,285
商工費	513,885	1.4	-	10,541	457,993
土木費	2,657,602	7.3	-	1,398,217	1,273,533
消防費	1,157,651	3.2	-	143,708	1,016,390
教育費	3,709,411	10.2	-	663,687	2,665,500
災害復旧費	29,814	0.1	-	-	-
公債費	3,273,311	9.0	-	-	3,186,855
諸支出金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
歳出合計	36,266,832	100.0	3,517,069	-	23,370,350

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	19,293,178	53.2	12,748,617	11,811,660	51.6
人件費	8,087,385	22.3	7,717,594	6,897,242	30.1
うち職員給	5,305,859	14.6	5,084,584	-	-
扶助費	7,932,482	21.9	1,844,168	1,727,563	7.6
公債費	3,273,311	9.0	3,186,855	3,186,855	13.9
元利償還金	3,273,311	9.0	3,186,855	3,186,855	13.9
うち元金	3,098,460	8.5	3,019,926	3,019,926	13.2
うち利子	174,851	0.5	166,929	166,929	0.7
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	13,426,771	37.0	9,657,916	6,866,263	30.0
物件費	4,802,197	13.2	3,260,057	2,852,501	12.5
維持補修費	263,631	0.7	187,059	187,059	0.8
補助費等	3,219,236	8.9	1,987,711	1,237,093	5.4
うち一部事務組合負担金	139,971	0.4	116,522	116,522	0.5
繰出金	3,371,128	9.3	2,746,295	2,589,610	11.3
積立金	1,759,479	4.9	1,475,310	-	-
投資・出資金・貸付金	11,100	0.0	1,484	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	3,546,883	9.8	963,817	-	-
うち人件費	151,785	0.4	117,504	-	-
普通建設事業費	3,517,069	9.7	963,817	-	-
うち補助	863,113	2.4	57,075	-	-
うち単独	2,507,119	6.9	894,301	-	-
災害復旧事業費	29,814	0.1	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	36,266,832	100.0	23,370,350	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和3年度 徳島県阿南市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	37,306	35,854	1,452	1,284	129	38,280	
2 住宅新築資金等貸付事業会計	11	7	4	4	-	-	
3 伊島地区生活排水処理事業会計	7	7	0	0	2	-	
4 学校給食事業会計	359	358	1	1	13	-	
5 奨学資金貸付事業会計	11	11	0	0	3	-	
6 春日野地域下水道事業会計	44	39	5	5	5	-	
7 豊香野地区生活排水処理事業会計	6	6	0	0	0	-	
8 西春日野生活排水処理事業会計	16	12	4	4	0	-	
9 夜間休日診療所事業会計	31	31	0	0	24	-	
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	70,785	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	70,457	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実質公債費比率	5.0	%
歳入総額	37,732,106	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	36,266,832	千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1	
実質収支	1,297,409	千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2	
標準財政規模	21,442,753	千円			
地方債現在高	38,279,920	千円			

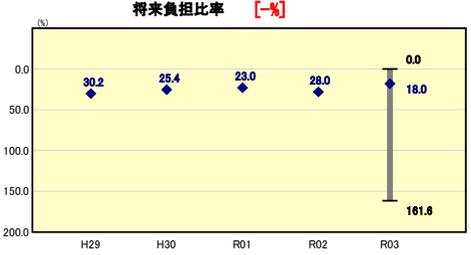


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の翌年の地方公務員給与実態調査に基づいているが、令和3年度は令和3年調査の数値を引用している。

令和3年度

徳島県阿南市

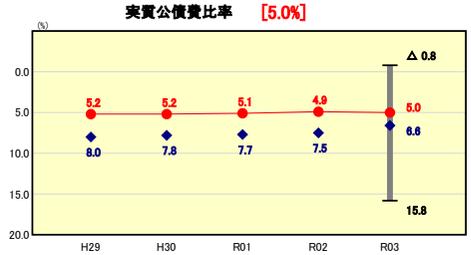
将来負担の状況



将来負担比率の分析欄

充当可能財源等が将来負担額を上回っているため将来負担比率の値は生じていない。主要因としては、財政調整基金をはじめとする充当可能基金が約187億円にのぼるほか、交付税算入率が高い地方債を優先して発行していることなどから将来負担額が抑えられていると分析している。分母となる市税収入等では立地企業の業績に大きな影響を受ける税収構造であることから財源不足を安易に財政調整基金からの繰入金で賄うことのないよう日頃より徴収強化を図り慎重な基金運営に努めるとともに将来負担額の増加の原因となる市債発行を財源とする投資事業については、採択過程において厳しく精査するなど堅実な財政運営に努める必要がある。

公債費負担の状況



実質公債費比率の分析欄

事業採択過程において厳しい事業費の精査や交付税措置率の高い市債発行を行ってきた。その結果、全国平均を下回る5.0%となり類似団体平均を1.6ポイント下回った。その一方で、前年度と比べると0.1ポイント増加しており、令和2年度より合併特例債の発行枠も枯渇したため不要不急の事業を精査しつつ政策効果の高いものを採択し市債発行を抑制するとともに発行に当たっては、交付税措置の手厚いものを取捨選択し、実質的な負担が増加しないように努める必要がある。

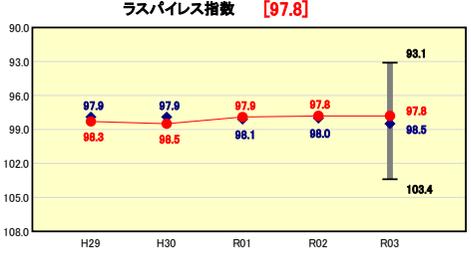
定員管理の状況



人口1,000人当たり職員数の分析欄

広大な行政面積を有し、保育所等の公共施設も点在していることから、人口千人あたりの職員数については全国平均・県平均より高い状況で推移している。令和3年4月1日時点の正規職員数は前年度と比較し11人減となっているが今後も住民サービスの維持に配慮しつつ、既存施設の統廃合や業務の民間委託等を積極的に進めるとともに、今後の定年延長制度に対応しながら、総人件費を意識した定員管理を行っていくことが重要である。

給与水準 (国との比較)



ラスパイレス指数の分析欄

前年度と同じ値となり、全国平均を下回る状況が続いているが、今後においても国家公務員の給与に関する政策や、人事院勧告等の動向を注視しつつ、給与水準の適正化に努めていく必要がある。

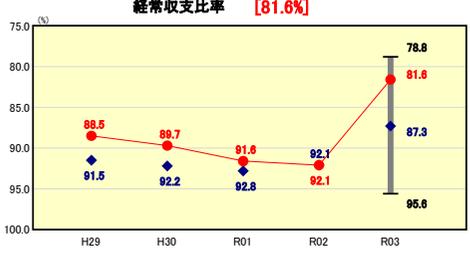
財政力



財政力指数の分析欄

平成20年度から財源不足団体となっており、令和3年度の財政力指数は前年度に比べ0.04ポイント悪化した。市税については、前年度と比較し増加しているものの急速な高齢化等を背景とした社会保障関連経費の増大などが大きく財政力指数は低下している。今後、引き続き税の徴収強化等により歳入確保に努めるとともに定員管理・給与の適正化、実施事業の取捨など歳出の見直しを行い、財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄

令和3年度の経常収支比率は81.6%と前年度より10.5%好転した。歳入面では、普通交付税の再算定等により地方交付税の増加があった一方で、歳出面では義務的経費が増加しており特に、児童手当給付費などの扶助費が大きく増加している。また、普通建設事業等に伴う起債発行により、公債費も増加している。歳入増加の要因の1つである交付税は依存財源であるため、自主財源である地方税の確保に努めることで安定した歳入確保を行うと共に、普通建設事業等の取捨による公債費の抑制に努める必要がある。

人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費、物件費及び維持管理費の人口1人あたりの決算額は前年度より7,087円増となっており全国・国平均と比べ高くなっており類似団体内の順位も極めて悪い。主要因として、人件費でごみ収集業務を直営で行っているほか保育所や学校給食等の民間委託が進んでいないためである。また、合併後の課題でもある類似公共施設の統廃合等については検討を進めているものの具体的な計画には至っておらず、既存施設の老朽化による維持コストが増加する見通しである。今後は、公共施設等総合管理計画に基づき全庁的に統廃合を進めるとともに民間委託・指定管理者制度導入を行い管理コストの削減を図り、効率的な行政運営に努める必要がある。

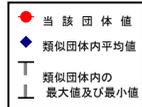
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

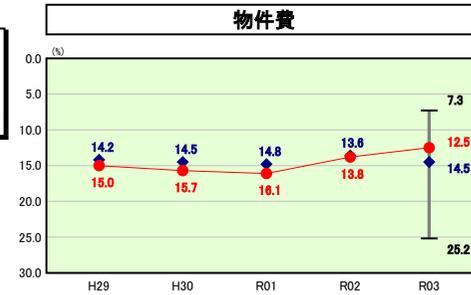
徳島県阿南市

経常収支比率の分析

人口	70,785	人(R4.1.1現在)			
うち日本人	70,457	人(R4.1.1現在)			
面積	279.25	km ²	実質赤字比率	-	%
歳入総額	37,732,106	千円	連結実質赤字比率	-	%
歳出総額	36,266,832	千円	実質公債費比率	5.0	%
実質収支	1,297,409	千円	将来負担比率	-	%
標準財政規模	21,442,753	千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1	
地方債現在高	38,279,920	千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2	



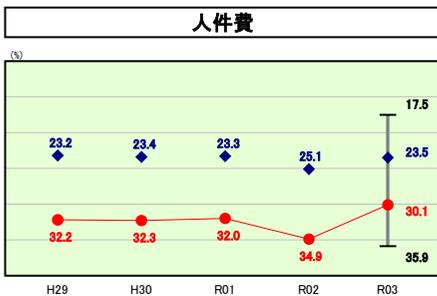
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 21/79 全国平均 13.8 徳島県平均 12.1

物件費の分析欄

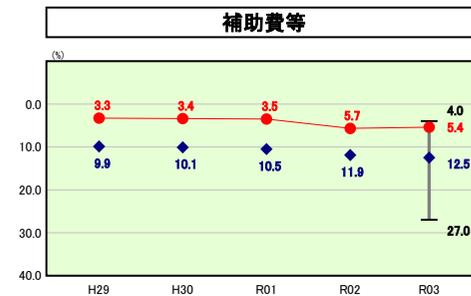
物件費に係る経常収支比率は12.5%と類似団体の平均より2.0ポイント下回り県平均と比べると0.4ポイント上回っている。令和2年度と比べ、1.3ポイント下回ったが、これは前年度にGIGAスクール構想による小・中学校へiPad等の導入経費が大きかったためである。公共施設等総合管理計画に基づく各施設の統廃合の検討を進めていくことやトップランナー方式で示されている民間委託等を活用し、公共施設等の管理経費の縮減に努める必要がある。



類似団体内順位 77/79 全国平均 25.2 徳島県平均 27.2

人件費の分析欄

前年度比4.8ポイントの減となっているものの、全国・県平均を大きく上回っている。
 本市では広大な行政面積を有し公共施設が点在していることに加え、統廃合や業務の民間委託も進んでいないため、保育所、給食調理、ごみ収集現場において多くの会計年度任用職員を抱えており人件費が高止まりしている要因となっている。
 今後、施設の統廃合や民間委託等、スピード感を持って進めるとともに事務事業の見直し、効率化による適切な定員管理を行い、人件費の抑制に努める必要がある。



類似団体内順位 5/79 全国平均 10.2 徳島県平均 9.7

補助費等の分析欄

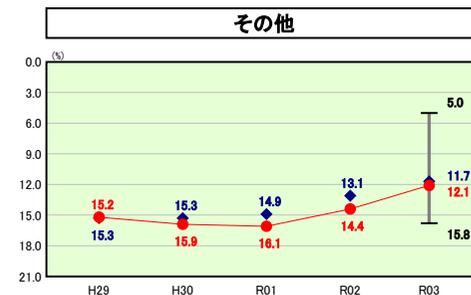
令和3年度は特別定額給付金事業等の減により対前年度費で0.3ポイント減少した。また、当市は旧賀川町及び旧羽ノ浦町と市町合併し旧1市2町からの負担金で運営していた一部事務組合(消防・衛生)の業務を継承したため、類似団体平均より7.1ポイント下回っている一方、人件費の割合が高くなっている。
 市単独補助金等については、平成29年8月に「補助金等に関する基本方針」を策定し各団体の収支状況等を精査した上で決定するほか団体の統合、再編や補助の終期を設定するなど見直しを行うこととしている。



類似団体内順位 10/79 全国平均 12.0 徳島県平均 9.2

扶助費の分析欄

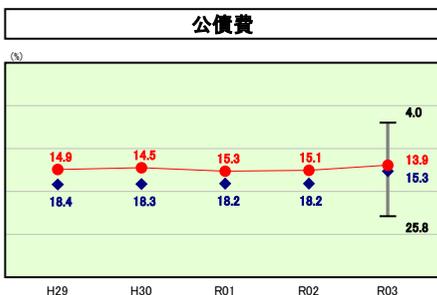
扶助費に係る経常収支比率は7.6%と全国、県平均を下回っており類似団体の平均より2.2ポイント下回っているものの安心して子育てができるまちづくりを目指すため18歳までの医療費無料化を行っていることや障がい者福祉サービス関連経費、少子高齢化の進展による社会保障関連経費の増加が見込まれることから、各事業における受給権資格審査等において更なる適正化を図る必要がある。



類似団体内順位 45/79 全国平均 12.0 徳島県平均 13.6

その他の分析欄

その他に係る経常収支比率は介護保険事業への繰出金が減になったことなどから対前年度比2.3ポイント減少している。一方で、類似団体平均を0.4ポイント上回っており、主な要因として歳出の繰出金で介護保険事業特別会計等において高齢化等を背景とする給付額が多いことである。
 今後も引き続き、独立採算性の原則に鑑み、受益者負担の適正化や基準外繰出金の見直しに努める必要がある。



類似団体内順位 30/79 全国平均 15.7 徳島県平均 16.3

公債費の分析欄

市債の発行を伴う事業の厳しい精査を行うとともに高利残債の利率見直し交渉による利子負担の軽減を図っていることなどから公債費に係る経常収支比率は13.9%と類似団体平均より1.4ポイント下回った。しかし公債費は約32億7千万円となっており公債費負担は依然として高い。
 令和2年度に合併特例債の発行が終了し本来の対象事業における地方債の発行へシフトしていることや一般財源確保のために臨時財政対策債発行額の増加が見込まれることから健全化判断比率の悪化に注意を払いながら、慎重な市債発行により堅実な財政運営に努める必要がある。



類似団体内順位 13/79 全国平均 73.2 徳島県平均 71.8

公債費以外の分析欄

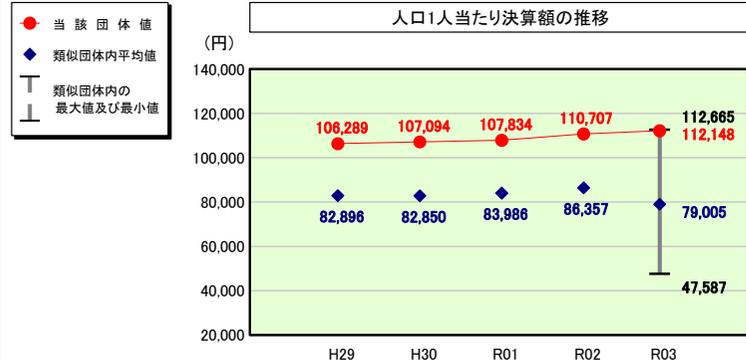
公債費以外の経常収支比率は、前年度と比較すると9.3ポイント好転し類似団体平均より4.3ポイント下回っている。主な要因として、歳出において物件費の経常収支比率で1.3ポイント好転した等である。
 今後も、市税の徴収強化等により一般財源の安定的な確保に努める必要があり、また施設管理において公共施設等総合管理計画に基づく各施設の統廃合や指定管理者制度の導入等による管理コストの軽減に努めることが重要である。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

徳島県阿南市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	8,087,385	114,253	72,345	57.9
一部事務組合負担金(補助費等)	81,993	1,158	6,087	▲ 81.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	44,607	630	1,128	▲ 44.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	9	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	175,245	2,476	2,326	6.4
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	151,785	2,144	1,625	31.9
▲退職金	▲ 602,600	▲ 8,513	▲ 4,515	88.5
合計	7,938,415	112,148	79,005	42.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	11.29	7.50	3.79
ラスパイレース指数	97.8	98.5	▲ 0.7

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

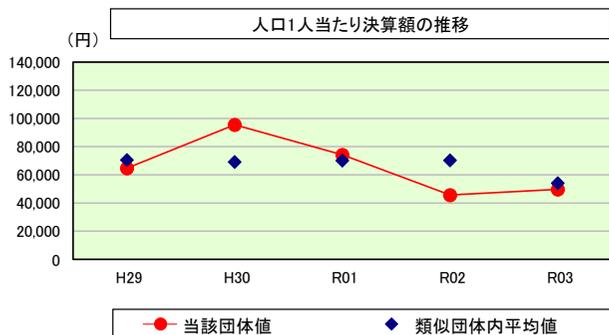


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	3,273,311	46,243	42,274	9.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還に相当するもの (年度割相当額)	-	-	53	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	403,747	5,704	12,769	▲ 55.3
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	1,973	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	635	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 86,456	▲ 1,221	▲ 5,447	▲ 77.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 2,644,089	▲ 37,354	▲ 37,418	▲ 0.2
合計	946,513	13,372	14,840	▲ 9.9

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H29	4,807,671	64,728	▲ 34.1	70,615	4.9	▲ 39.0
うち単独分	3,249,518	43,750	▲ 45.0	37,382	▲ 1.9	▲ 43.1
H30	7,022,608	95,537	▲ 47.6	69,185	▲ 2.0	▲ 49.6
うち単独分	4,775,828	64,971	48.5	38,519	3.0	45.5
R01	5,391,597	74,229	▲ 22.3	70,166	1.4	▲ 23.7
うち単独分	3,277,504	45,123	▲ 30.5	36,115	▲ 6.2	▲ 24.3
R02	3,281,377	45,708	▲ 38.4	70,329	0.2	▲ 38.6
うち単独分	1,339,780	18,662	▲ 58.6	39,403	9.1	▲ 67.7
R03	3,517,069	49,687	8.7	54,225	▲ 22.9	31.6
うち単独分	2,507,119	35,419	89.8	27,337	▲ 30.6	120.4
過去5年間平均	4,804,064	65,978	▲ 7.7	66,904	▲ 3.7	▲ 4.0
うち単独分	3,029,950	41,585	0.8	35,751	▲ 5.3	6.1

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

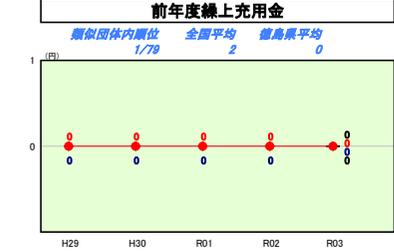
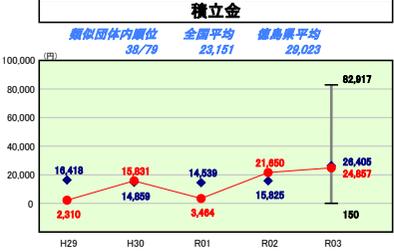
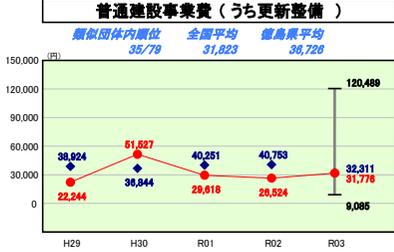
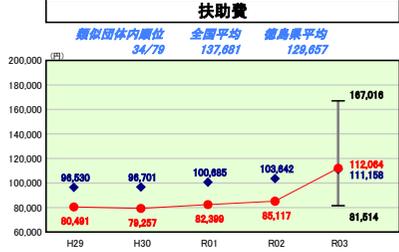
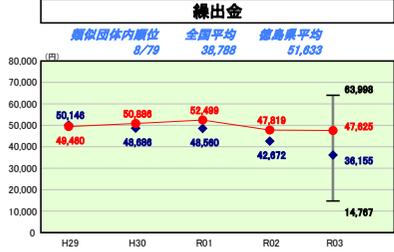
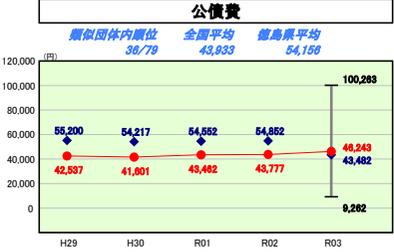
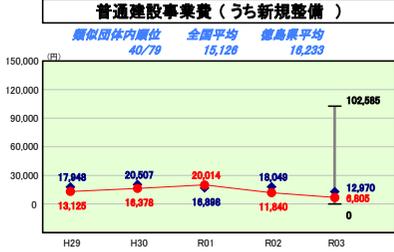
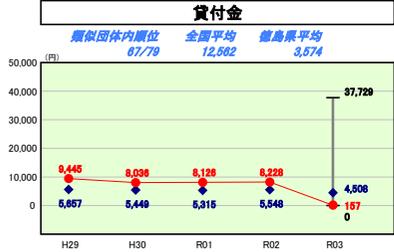
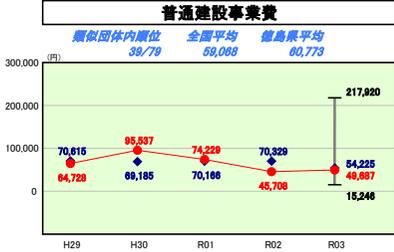
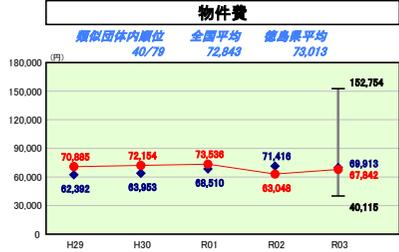
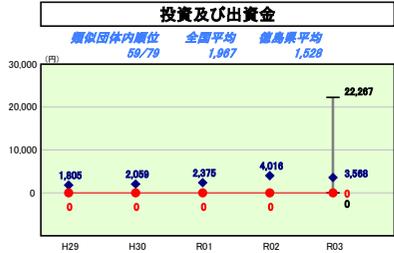
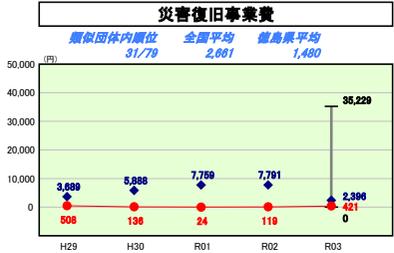
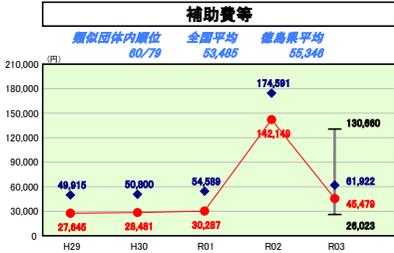
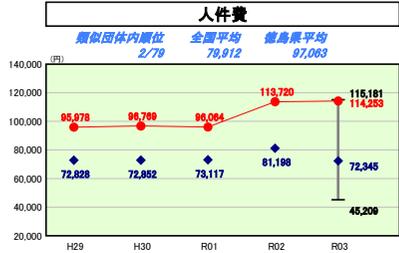
令和3年度

徳島県阿南市

人口	70,785人(※4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	70,467人(※4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
歳入総額	279,254千円	実質公債費比率	5.0%
歳入総額	37,732,106千円	将来負担比率	-%
歳出総額	36,286,832千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1
実質収支	1,287,400千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2
標準財政規模	21,442,753千円		
地方債現在高	38,279,920千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性別歳出の分析

歳出決算総額に対する市民1人あたりコストは、512,352円となっている。
 主な構成項目である人件費では、令和2年度の会計年度任用職員制度の実施に伴い大きく増加しており、類似団体内平均値と比較しても大きく上回っている状態が推移している。本市は広大な行政面積を有し多数点在する公共施設における行政需要に見合う人員配置を行ってきたことが一因と考えられるが、少子高齢化、人口減少社会における事務事業の見直し、公共施設の統廃合等、多面的に検討・実施していく必要がある。
 扶助費については、18歳までの医療費無料化を行っていることや障がい者福祉サービス関連経費、少子高齢化の進展による社会保障関連経費の増加により昨年度に比べ市民一人当たり26,947円増加となっている。
 公債費については、合併特例債の償還額増加等に伴い昨年度に比べ市民一人当たり2,466円増加し類似団体の値を2,761円増加している。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

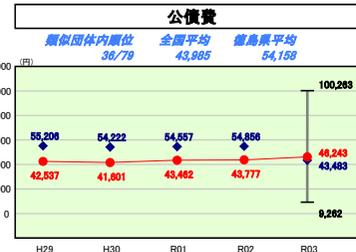
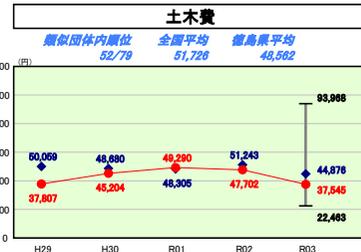
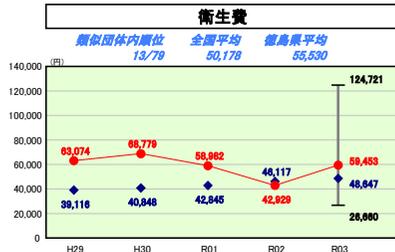
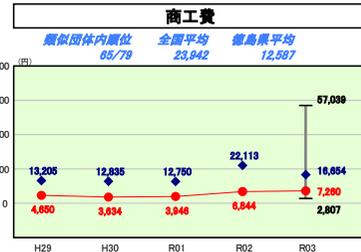
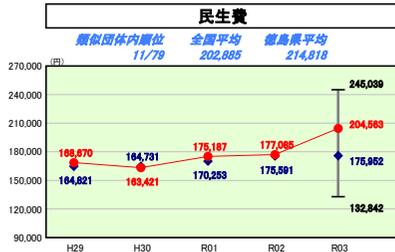
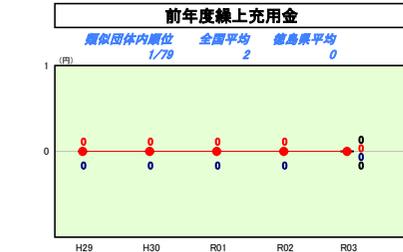
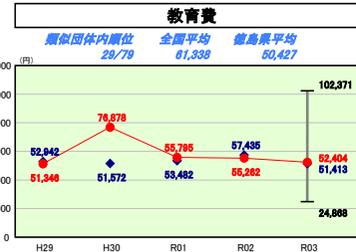
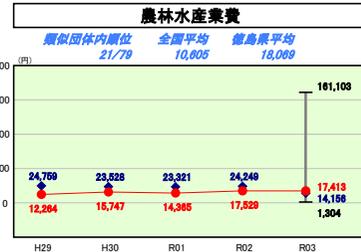
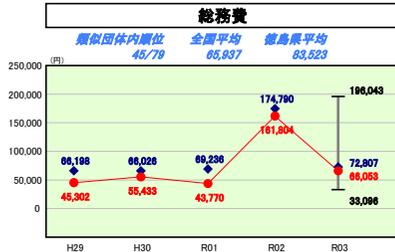
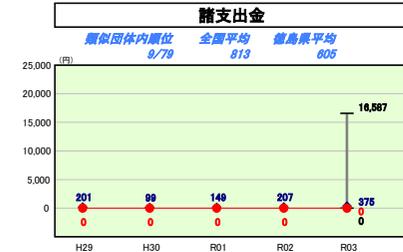
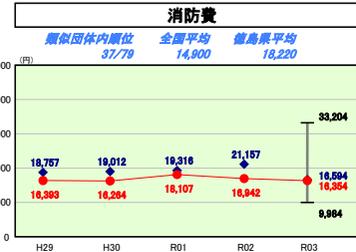
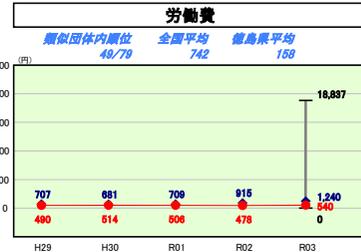
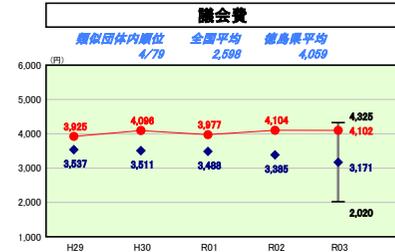
令和3年度

徳島県阿南市

人口	70,785人(※4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	70,467人(※4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	279.25km ²	実質公債費比率	5.0%
歳入総額	37,732,106千円	特長負担比率	-%
歳出総額	36,286,832千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1
実質収支	1,287,400千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2
標準財政規模	21,442,753千円		
地方債現在高	38,279,920千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

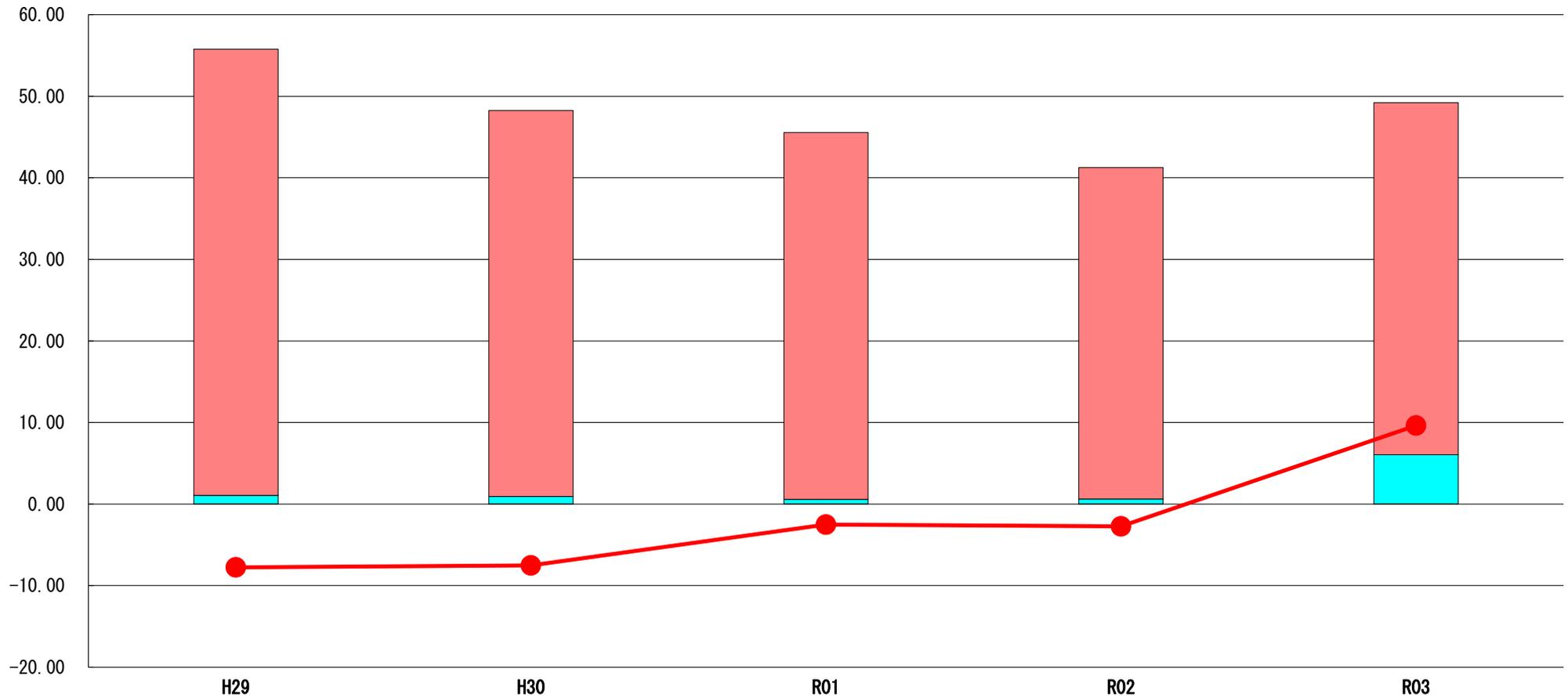
議会費、民生費、教育費、衛生費、公債費などにおいて類似団体の値を上回った。
 議会費では、令和3年度市議会選挙より定員を28名から26名へ削減したが市民一人当たり4,102円と類似団体の値を931円上回っている。
 民生費では、住民税非課税世帯等臨時特別給付金などの事業により類似団体の値を上回る事となった。
 教育費では、GIGAスクール構想推進のため、小・中学校内に高速通信施設の整備等を実施したことにより昨年度に比べ市民一人当たり2,858円増加している。
 衛生費では、新型コロナウイルスワクチン接種事業などで類似団体の値を上回ることとなった。
 公債費では、合併特例事業債等の償還額増加により昨年度に比べ市民一人当たり2,466円増加している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和3年度

徳島県阿南市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
 財政調整基金残高		54.71	47.33	44.96	40.65	43.17
 実質収支額		1.07	0.94	0.59	0.61	6.05
 実質単年度収支		▲ 7.76	▲ 7.51	▲ 2.51	▲ 2.73	9.63

分析欄

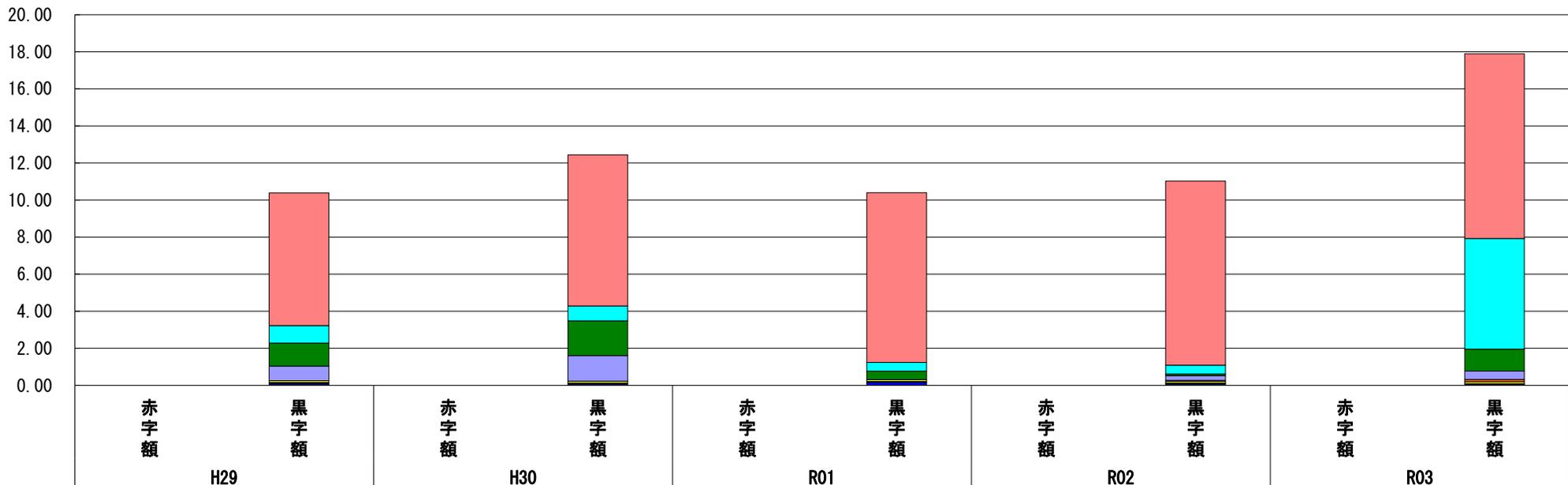
財政調整基金の残高は法人市民税等の増加による財源調整のため約8億9千万円増加の約92億6千万円となった。
 臨時財政対策債の発行、普通交付税の再算定による交付額増等により実質収支は黒字を維持しており実質単年度収支についても黒字へ好転している。
 令和3年度については、実質単年度収支の黒字化等が見られたが合併算定替の終了による交付税額の減少や景気の動向に影響を受けやすい法人市民税等市税収入の先行きに不透明があることに踏まえ、引き続き一般財源の確保のため、堅実な財政運営に努める必要がある。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和3年度

徳島県阿南市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H29	H30	R01	R02	R03
阿南市水道事業会計		7.15	8.15	9.16	9.93	9.96
一般会計		0.95	0.81	0.47	0.48	5.98
介護保険事業会計		1.24	1.87	0.46	0.09	1.18
国民健康保険事業会計		0.79	1.38	0.00	0.25	0.45
阿南市公共下水道事業会計		-	-	-	0.05	0.13
後期高齢者医療会計		0.10	0.11	0.10	0.09	0.10
加茂谷診療所事業会計		0.03	0.00	0.00	0.01	0.03
春日野地域下水道事業会計		0.04	0.05	0.05	0.05	0.02
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.08	0.07	0.16	0.07	0.04

分析欄

当市の一般会計及び公営企業会計等の実質収支はすべての会計において黒字もしくは収支0の決算となり、連結実質赤字比率は生じていないものの、一般会計から各会計への繰出金は大きく減少する見込みはなく一般会計への負担が大きい状況であるため各会計については、独立採算制の原則に鑑みて十分な財源確保に努めるとともに事業歳出予算を精査することで財政の健全化を維持する必要がある。

また、一般会計においても今後は法人市民税をはじめとする市税収入が不透明であるほか、普通交付税の合併算定替が終了したことなどから一般財源の確保が一層、厳しくなることが予想されるため、堅実な財政運営をすすめることが重要である。

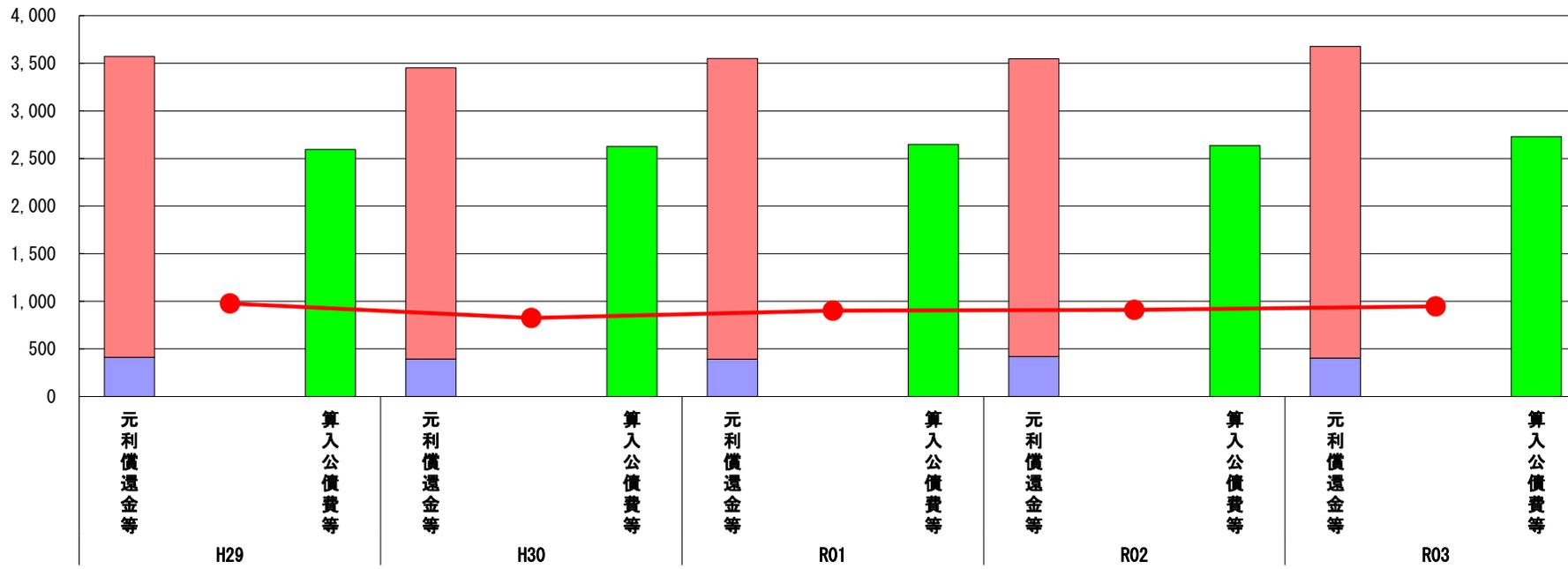
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

徳島県阿南市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		3,159	3,058	3,157	3,127	3,273
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		411	393	392	419	404
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		1	1	1	1	-
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		2,594	2,627	2,648	2,637	2,731
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		977	825	902	910	946

分析欄

実質公債費比率については、平成19年度以降減少傾向であったが平成29年度から微増し令和2年度は4.9%、令和3年度では5.0%となり増加している。なお、類似団体平均より1.6ポイント下回っており、全国・県平均と比較しても依然として低水準にある。

既発債の定期償還に加えて高利残債の利率見直し交渉を積極的に行っていることや、交付税算入率の高い合併特例債を計画的に活用してきたことにより現在の水準に抑えているものと分析している。

今後は、令和2年度で合併特例債の発行が終了し本来の対象事業における地方債の活用が増加し交付税算入公債費等が減少することが想定されるため実質公債費比率の悪化が懸念される。そのため慎重な

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

※2 減債基金積立状況等		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の借入がなく満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てていない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

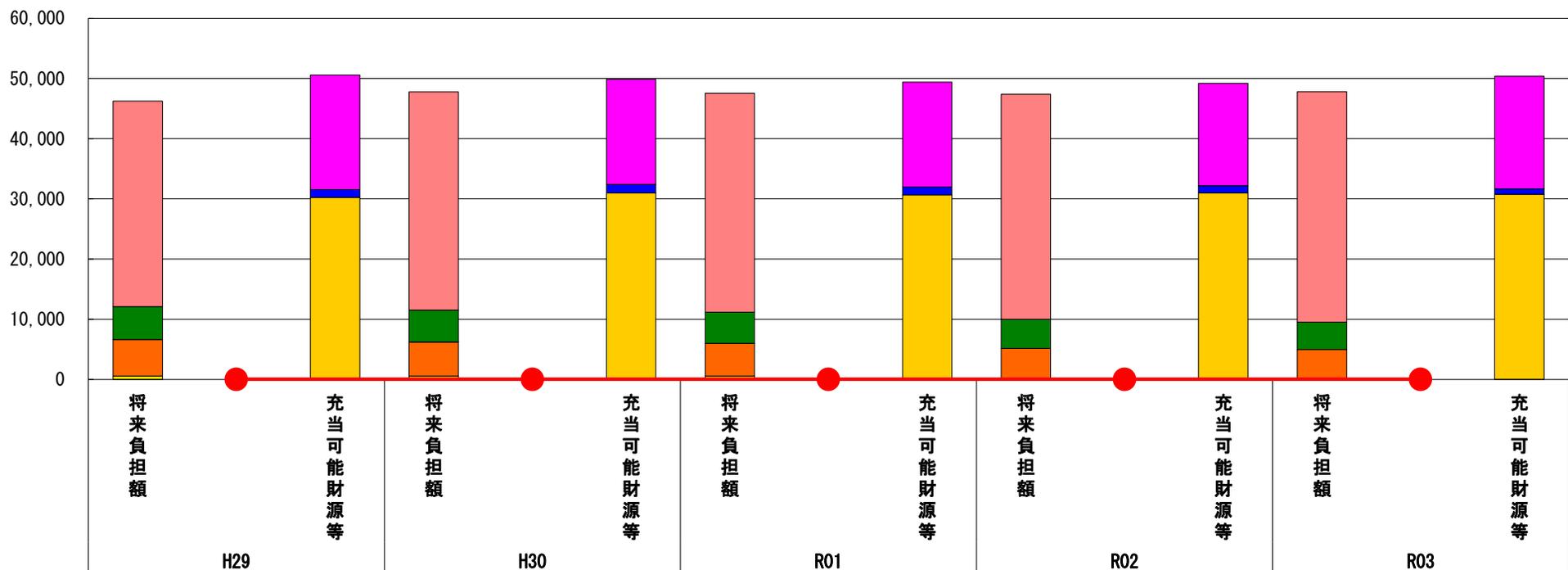
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

徳島県阿南市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		34,142	36,250	36,356	37,379	38,280
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		5,466	5,283	5,165	4,833	4,559
	組合等負担等見込額		2	2	1	-	-
	退職手当負担見込額		6,053	5,654	5,436	5,169	4,964
	設立法人等の負債額等負担見込額		573	570	568	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		19,050	17,467	17,418	16,998	18,703
	充当可能特定歳入		1,306	1,418	1,329	1,212	918
	基準財政需要額算入見込額		30,235	30,996	30,661	30,973	30,761
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 4,355	▲ 2,123	▲ 1,883	▲ 1,802	▲ 2,580

分析欄

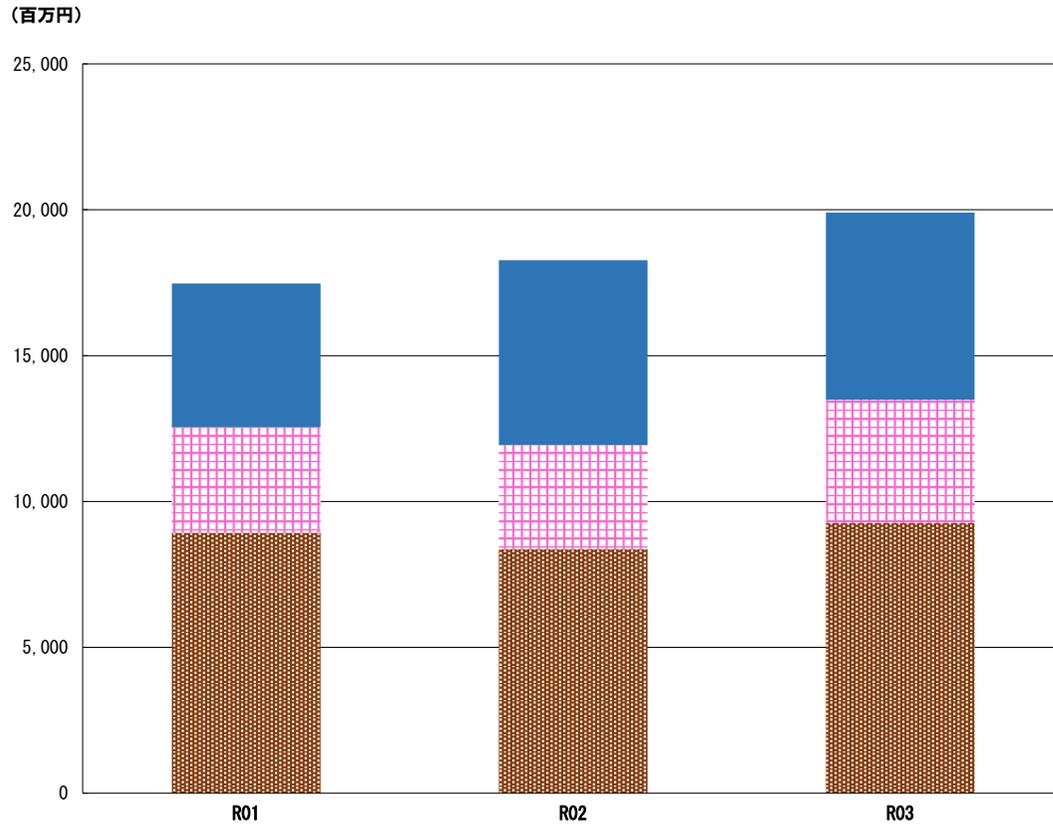
将来負担額については、合併特例債を活用した基金積立や臨時財政対策債等の地方債の発行により地方債残高は増加したがその他の項目については減少している。

将来負担額に対し充当可能財源等は約187億円(令和3年度末)充当可能基金を保有していること、交付税措置率の高い合併特例債等を優先的に活用してきたことなどから将来負担比率は生じていない。

また、退職手当負担(見込額)についても適正な定員管理により新規採用を最小限に留めていることなどから抑制されているが、今後は市税収入が景気に左右されやすく不安定であることや普通交付税の合併算定替が終了したことを鑑み財源不足を補い収支の均衡を保つための財政調整基金等からの繰入が想定されるためより一層の事務事業の効率化、適正化を図り歳出抑制に努めるとともに慎重な市債発行と基金運用に努めることが重要である。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R01	R02	R03
財政調整基金		8,933	8,364	9,258
減債基金		3,614	3,570	4,227
その他特定目的基金		4,928	6,339	6,417
輝けあなんふるさと創造基金		1,000	2,281	2,285
阿南市ごみ処理施設建設基金		1,357	1,343	1,346
日亜化学工業河川水質改良基金		519	497	479
阿南市地域福祉基金		451	451	451
阿南市輝け子どもの子育て応援に係る日亜化学工業基金		417	391	365
基金残高合計		17,475	18,273	19,902

令和3年度

徳島県阿南市

基金全体

(増減理由)

新型コロナウイルス感染症に関する対策の実施に要する資金として「新型コロナウイルス感染症対策応援基金」を約29百万円取り崩す等したが、財源調整のため財政調整基金を約894百万円、市債の償還財源のための減債基金を約657百万円、基金運用から生ずる収益等により積み立てたことで、基金全体としては約1,629百万円の増となった。

(今後の方針)

新市まちづくり計画に掲げる事業に充てていくことを目的として、平成30年度に合併特例債を活用した基金である「輝けあなんふるさと創造基金」を達成し、令和2年度に更に積み立てを行った。老朽化した公共施設の更新に係る費用や義務的経費が増大していること、大幅な収支増が見込めないことから、基金全体の額は今後減少していく見込みである。

財政調整基金

(増減理由)

基金運用から生ずる収益及び法人市民税等の増加による財源調整を行ったことにより増加した。

(今後の方針)

老朽化施設の更新費用、扶助費等義務的経費などが年々増加することが見込まれるため、残高は減少していくことが想定される。
災害の備え等を考慮しつつ、必要事業をしゅん別し、効果的に取り崩し・積み立てを行う。

減債基金

(増減理由)

基金運用から生ずる収益や普通交付税再算定による臨時財政対策債償還基金費を積み立てたことにより増加した。

(今後の方針)

今後も市債の償還及び適正な管理に必要な財源を確保するため、計画的に積み立てる。

その他特定目的基金

(基金の用途)

輝けあなんふるさと創造基金：地域振興及び市民の一体感を醸成を図るために行うまちづくり事業に資する。
阿南市ごみ処理施設建設基金：ごみ処理施設の建設及び解体に要する経費の財源に充てる。
新型コロナウイルス感染症対策応援基金：新型コロナウイルス感染症に関する対策の実施に要する経費の財源に充てるため。
阿南市ふるさと阿南応援事業基金：ふるさと阿南応援事業寄附金を阿南SUPタウンプロジェクトの推進に関する事業、関係人口の創出・拡大・深化に関する事業、環境保全に関する事業、観光振興に関する事業、創業支援に関する事業、その寄附をした者が特に指定する事項で、市長が認める事業の財源に充てる。

(増減理由)

輝けあなんふるさと創造基金：地域振興及び市民の一体感を醸成を図るために行うまちづくり事業に要する経費に約9百万円取崩し、財産収入等を約5百万円積立。
新型コロナウイルス感染症対策応援基金：新型コロナウイルス感染症に関する対策の実施に要する経費に約29百万円取崩し、財産収入等を約2百万円積立。
阿南市ごみ処理施設建設基金：クリーンセンター解体に要する経費に約6百万円取崩し、財産収入等を約9百万円積立。
阿南市ふるさと阿南応援事業基金：環境保全や観光振興などの事業に要する経費に約9百万円取崩し、阿南応援事業寄附金等を活用して約82百万円積立。

(今後の方針)

阿南市ごみ処理施設建設基金：クリーンセンター解体に関する経費に活用予定。
新型コロナウイルス感染症対策応援基金：新型コロナウイルス感染症に関する対策の実施に要する経費に充てる予定。
阿南市ふるさと阿南応援事業基金：環境保全や観光振興などの事業に要する経費に充てる予定。

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

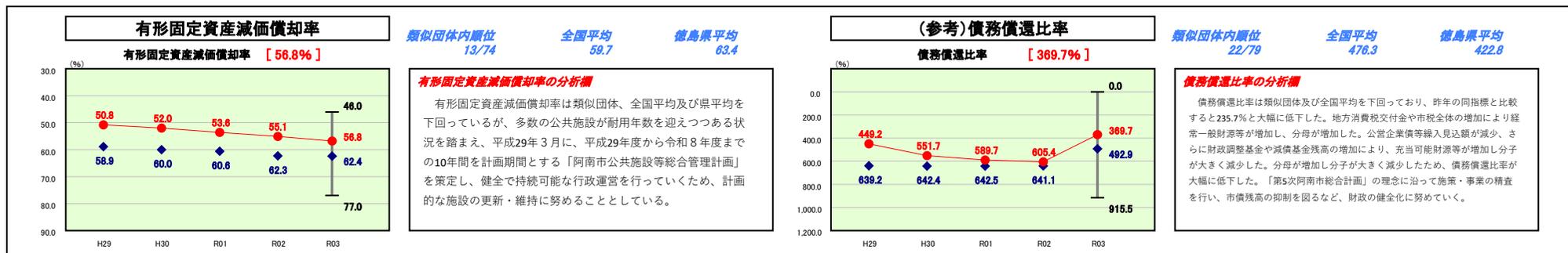
令和3年度

徳島県阿南市

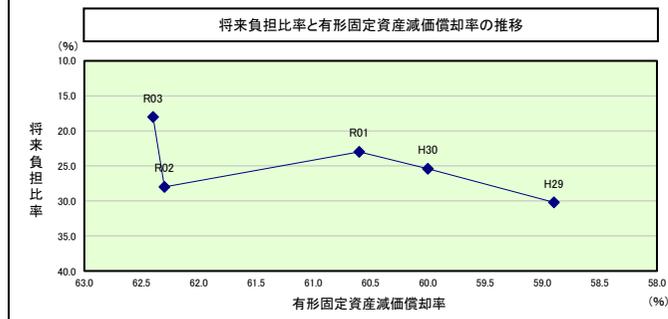
人口	70,785人 (R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	70,457人 (R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	279.25km ²	実質公債費比率	5.0%
歳入総額	37,732,106千円	将来負担比率	-%
歳出総額	36,266,832千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1
実収支	1,297,409千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2
標準財政規模	21,442,753千円		
地方債現在高	38,279,920千円		



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



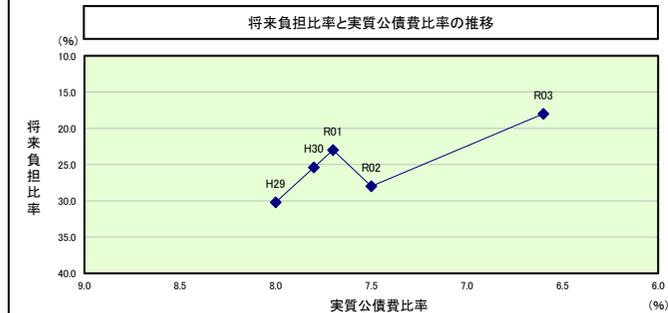
分析欄

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率は類似団体と比べて低い数値となっているものの、耐用年数を迎える多数の施設の維持管理経費の増大が見込まれることや、老朽化した施設の改修・更新等により充当可能基金残高が減少することも想定されることから、平成29年3月に策定した「阿南市公共施設等総合管理計画」に沿って総合的かつ効率的な施設の維持管理、長寿命化及び統合等に取り組んでいく。

(参考)

		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	-	-	-	-	-
	有形固定資産減価償却率	50.8	52.0	53.6	55.1	56.8
類似団体内平均値	将来負担比率	30.2	25.4	23.0	28.0	18.0
	有形固定資産減価償却率	58.9	60.0	60.6	62.3	62.4

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

将来負担比率及び実質公債費比率は類似団体内平均より低い水準を保っているが、将来への負担を軽減するため、実施事業の精査を行い、市債発行に当たっては交付税措置されるものを優先するなど、引き続き適切な財政運営に努めていく。

(参考)

		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	-	-	-	-	-
	実質公債費比率	5.2	5.2	5.1	4.9	5.0
類似団体内平均値	将来負担比率	30.2	25.4	23.0	28.0	18.0
	実質公債費比率	8.0	7.8	7.7	7.5	6.6

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

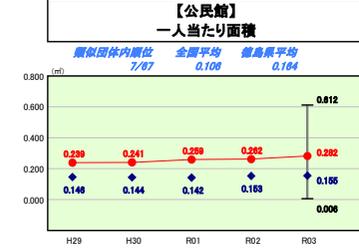
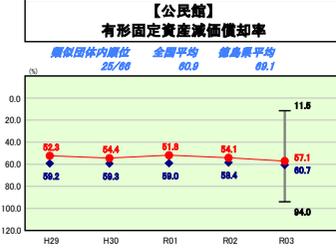
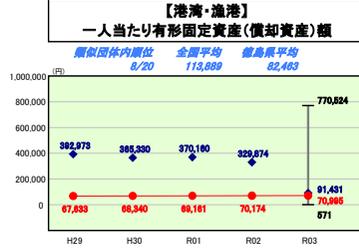
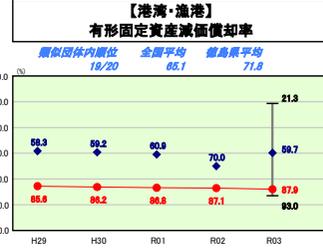
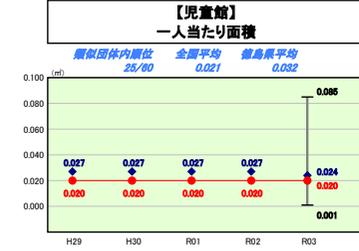
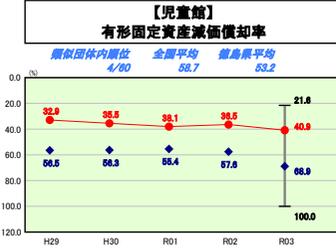
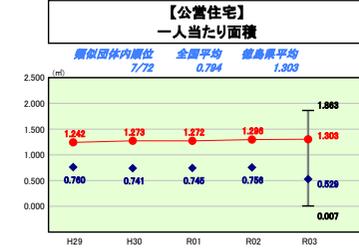
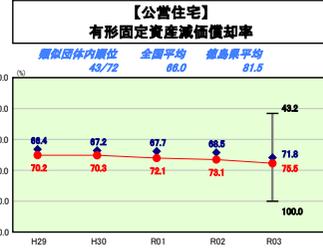
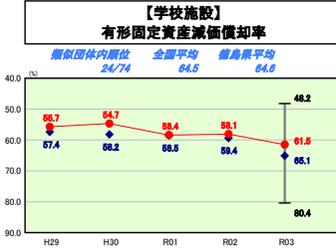
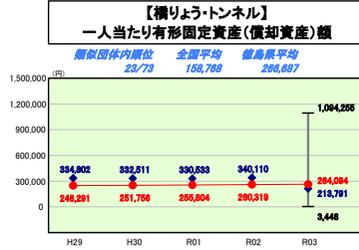
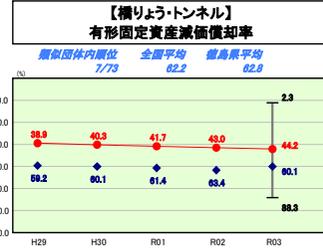
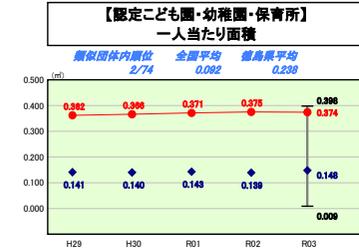
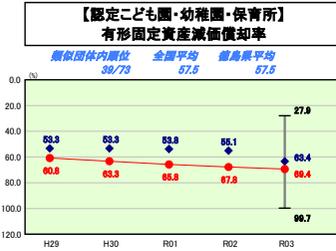
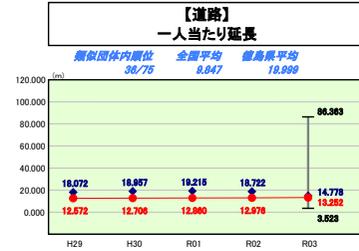
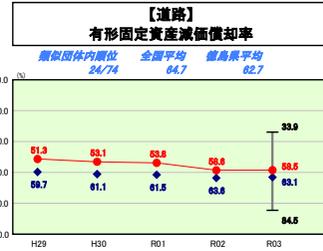
令和3年度

徳島県阿南市

人口	70,785	人(04.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	70,467	人(04.1.1現在)	道新実赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実質公債費比率	5.0	%
歳入総額	37,732,106	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	36,286,832	千円	市町村類型	H29 II-1 H30 II-1 R01 II-1	
実質収支	1,297,409	千円	(年度毎)	R02 II-1 R03 II-2	
標準財政規模	21,442,763	千円			
地方債現在高	36,279,820	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



施設情報の分析値

本市においては、認定こども園・幼稚園・保育所、公営住宅及び港湾・漁港において、有形固定資産減価償却率が類似団体内平均値、全国平均及び県平均より高い水準にある。また、認定こども園・幼稚園・保育所、公営住宅及び公民館については、一人当たり面積が類似団体内平均値を上回っている。今後、「阿南市公共施設等総合管理計画」に基づき、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを適切に進めていく。

